

---

# 失い、得たモノ(仮)

バルトロマイ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

失い、得たモノ（仮）

### 【Zコード】

Z0518Z

### 【作者名】

バルトロマイ

### 【あらすじ】

全ての人間は、世界の内側にて輪廻する・・・

ある理由から、世界の外を覗てしまつた少年『山田 勇樹』が、今までの全てを失い、そして何かを得る物語。

異世界トリップ的な何かです。

外道、クトゥルフ神話、創作等のキーワードに嫌悪感、あるいは「貴様ごときの作品を読んだら目が汚れるわ！！！」等の方は見られない方が良いと思われます。

## 導入編1話（前書き）

久し振りに書いたから文法とか大丈夫かが心配・・・

俺、期末テスト期間中なんだよな・・・

## 導入編1話

身体が異常に軽い。

宙に浮いている様な違和感を感じ、目を開ける。

一面の闇。

此処は何処だらうか？

何故こんなところに居るのだろうか？

そして何より、自分は誰なのだろうか？

・・・状況を確認してみよう。

今わかつてていることは2つ、一般的と呼べるであろう知識があることと、自分の事は何一つ分からないということだ。

この訳の分からぬ闇の空間に関しても、情報は全くない。

身体は動かせるが、地面に足が着いておらず、何処が地面かすらも分からぬ。

幸い、自分を思い出せないこと以外に違和感はない。

こんなところに居る時点で、幸いも何も無いのだが。

状況確認終了。

結論として、何も分からず、八方塞がりなわけだ。

夢・・・にしては、意識がはつきりしそぎている。

この時間を使いたいものだが・・・

歩くことも出来ず、ただ浮遊するだけ。

上手く言い表せないが悪意を感じるな。

つまり、どうしようと？

なんか、精神的な意味で頭が痛くなつてきた・・・

自分の事は思い出せそうにない。

この空間について考えてみるか。

闇・・・悪とか魔とかが似合つ字であり、暗いモノをイメージすれば、最初に思い付きそうだ。

光の対極に位置する、天地創造前の世界の状態とか言われたていたりいなかつたり。

暗い中では物事がハツキリしないことから混沌とも言われる。

混沌・・・ギリシャ神話のカオスがコレに当たり、英語でも混沌のことを『chaos』とづつ・・・のだが、そんなハツキリしない

様な感じでは無い気がする。

例えるなら、もっと明確な・・・

「グツ・・・！？」

頭が痛む、偏頭痛というヤツだろ？。

痛かったのは一瞬だけだが、妙に違和感を感じる。

強いて言つなら、自分以外の誰かと混じったような。

その誰かが、誰かすらも分からぬのだが。

思考が逸れた。

ギリシャ 神話以外の混沌・・・

中国の四凶？

否、もつと凶悪な、ヒトを破滅させるナニカ・・・

不意に、心の真ん中に、言葉が浮かんでくる。

「『這い寄る・・・混沌』」

次の瞬間、ガラスが割れるような音と共に、闇が割れた。

最初に皿にしたものは、ブヨブヨとしたピンク色の肉塊。

ヒートを潰して集めれば、こんな色になりそうな。

上下左右、360度、それしかない。

それと同時に、鼻が曲がりそな程に臭い匂いを感じる。

空気がナニカに汚染されているかの様な不快感。

不浄の空間とはこの事を言つのだらう。

・・・これならば、やつきの闇の方がかなりマシだ。

しかも、ドンドン肉塊の壁が近付いてきているよな・・・

脱出出来ないのか！？

辺りを見渡す。

肉塊、肉塊、肉塊、肉塊、肉塊・・・アレは・・・？

一ヶ所だけ、肉塊のないスペースがある。

丁度、ヒート一人がギリギリ通れる位の。

この先に逝け（誤字ではない）と？

この先、光が無いような気がする。

とか考てる内に、壁はかなり迫ってきてる。

仕方ない・・・逝つてやるよ畜生・・・

そつして自分は、闇に足を踏み入れた。

歩き始めてから10分程度経つただろつか。

そもそもこの空間に時間という概念が有るかどうかは分からぬが。

ただ歩くだけでは暇だから、少し情報を整理してみるか。

自分が先刻呟いた『這い寄る混沌』とは、『外なる神』と呼ばれる異形の神性の1柱にして、彼ら（と、呼べるかは定かではないが）の総意であり、使者兼代行者の『ナイアルラトホテップ』の異名の1つである。

『ナイアルラトホテップ』は『千の顔を持つ者』と呼ばれ、『這い寄る混沌』の他に『闇に吼えるもの』や『燃える三眼』など、様々な異名を持つ。

何故、自分はこんな知識を持っている?

・・・一先ず置いておこう。

次はある肉塊だらけの空間について考えてみるか。

『ナイアルラトホテップ』は、あらゆる時空に現れることができる、

『門』と呼ばれるモノのアチラ側とコチラ側を行き来出来ると言わ  
れている。

ならばこの現象や先刻の闇、肉塊は時空、それか『門』に関係して  
いるのだろうか？

『門』で思い当たる神性・・・『ヨグ＝ソトース』だろうか？

『ヨグ＝ソトース』、全ての時間と空間に偏在し、『知識』を象徴  
している存在。

『門にして鍵』、『混沌の媒介』などの異名があり、アチラ側とコ  
チラ側の『門』であると言われている。

ならばあの肉塊の空間は『ヨグ＝ソトース』の外側、または内側と  
いう事か？

だが、『ヨグ＝ソトース』程の神性があんな肉塊であるのか？

そもそも、自分にそんな知識は無い。

・・・ますます分からなくなってきた。

考えても答えは出ない・・・やむを得ん、とりあえず歩いていれば  
いい。

ただ歩き続ける。

暇だ・・・

とてもなく暇だ・・・

私の感覚では5時間以上歩いたと思うのだが。

『・・・・』

何だ・・・今、何かが聞こえたような。

『・・・・・』

居る・・・ナニカが。

『・・・・・』

声の様なモノが近づいてくる。

否、自分の足が進んでいるのだ。

『・・・・・』

先刻は進まなかつた足が。

イヤダ・・・

今は勝手に進む。

イヤダ・・・

声のする方へと。

見テシマエバ、戻レナイ。

「……………あ」

そこには・・・急に壁のように巨大な、もはや言葉では言い表せない程に巨大な「虹色の輝く物体」が膨張していつてる。

吐き気が込み上げてくる、頭が沸騰しそうなほどに熱い、全身が引き裂かれる様な錯覚がする程に痛い。

『…………』

押し潰されそうな圧力を受ける。

この圧倒的な存在の前では、どんな人間もちっぽけに見えるだろう。

しかし

何故自分は、この存在に触れようとしているのだ！？

なんとか手を引き戻そうと力を入れるが、全く思い通りに動かない。

それどころか、力を入れれば入れる程に、自分の手は更にこの存在に触れようとする。

距離が狭まつていく。

5cm、4cm、3、2、1・・・

触れる瞬間。

「世界の外を見なさい、そして力を手に入れなさいな・・・見た果てに貴方という個が存在していれば・・・ですけれど」

そんな声が、聞こえたような気がした。

入ッテクル。

アラユル情報ガ、一瞬ニシテ。

脳ガ融ケ、眼球ガ抉リ出サレ、耳ト鼻ガ削ギ落トサレ、口ニ異物ガ押シ込マレ、首ガ千切レ飛ビ、腰ト肩ヲ碎カレ、足ト腕ヲヘシ折ラレ、心臓ガ潰サレ、胴ヲ圧縮サレ、圧縮サレタガ故ニ、十二指腸ガ例外ナク押シ潰サレル。

痛い、狂つてしまいそうだ。

痛みが全身を犯していく。

自分という構成要素が侵食され、新しく塗り変わっていく。

より高度な存在へと造り変わっていく。

ああ、痛みで、意識・・・が・・・

その日は何時もと同じだったと思う。

朝起きて、朝食を食べ、学校に行く。

俺の家は神奈川県の横浜の近く、そこから約一時間電車に乗って、高校に通っている。

俺が通う高校は、進学コースと総合コースに別れており、俺は進学コースの中の選抜進学に在籍している。

一応、勉強をしなければならないクラスなので、総合コースが普通に8時30分登校で、選抜進学コースは8時に来て自主勉強という、勉強を主体に置いたクラスになっている。

まあ、8時に来る奴はあまり居ないが。

そんな訳で、朝早く高校に行き、遅くに帰るのがほとんどの毎日だ。

変わったことといえば、放課後に自主勉強をして、そろそろ学校が閉まるから帰ろうと、同じく残っていた皆に声をかけた時だったか。

クラスメイトの『加藤 俊憲（かとう としのり）』から、石を貰つた。

確か・・・

「俺には必要ないモノだからな、勇ちゃんが持つてくれ。 . . 。  
どんな道を進んだとしても、それは『山田 勇樹』の選択の結果  
だ。その石が、少しでも良い結果のヒントになってくれれば幸いだ  
よ」

とか言われたつけ？

ついでに、『山田 勇樹』とは俺の名前で、クラス内では『勇ち  
ゃん』と呼ばれていたりする。

その後は横浜まで一緒に帰つていたメンバーと別れて帰宅した。

で、何故か今こんな状態だと。

だが・・・

「俺は、旧支配者のことなんて知らない・・・!？」

少なくとも、家に着くまでは知らなかつた。

否、家でもそんなことば、聞いたことすらなかつた。

そつこえば、石は何処にやつたつけ？

俊憲から貰つて、学ランのポケットに入れて、帰つて・・・

「家に帰つた時には無くなつてたな・・・」

そうだ、家に着いて俊憲に「石無くしちまつたぜ！――」的なメールを送りいづとした。

そつこや、どんな石を無くしたんだつけ？

大きさは学ランのポケットに入る位だから小さいだろ、形は角がたくさとあつて、俊憲は『トライペンドロロン』とか言つてたな。

後は、なんか無駄にキラキラしてて、違う角度で見ると色が変わつた。

今考えてみると、かなり変な石だつた。

ポケットに入れたと思って学校に置いてきたか、どこかに落としたか・・・

いずれにせよ、無くしてしまつた物は仕方ない。

・・・何だろうか、引っ張られる感覚がある。

目が、覚めるのか？



## 導入編1話（後書き）

誤字脱字、文法の誤り、感想等がありましたら「」報告ください、お願いします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0518z/>

---

失い、得たモノ(仮)

2011年12月1日22時49分発行